金剛寳戒寺便り

九月一日発行　第六号

檀信徒の皆さんこんにちは。今年の夏は例年よりも日照時間が百時間以上短かったそうです。ギラギラと暑い夏というよりも蒸し暑いお盆でしたが季節の変わり目に皆さん体調など崩されていませんか。

また全国各地で集中豪雨が起こり災害をもたらしました。皆さまのご親せきやご友人などで被害に遭われた方はいませんでしょうか。被災された皆さまに心よりお悔やみとお見舞い申し上げます。

まずはご報告です。八月三日に行いました大掃除には四〇人もの方がご協力頂きました。当日の未明まで雨が降っていましたので草取りは無理かと思っていたのですが早朝には雨も上がり、曇り空の中、幸い気温もそこまで上がらず比較的草取りには適した環境の中で小一時間の作業を行いました。一人ではなかなかはかどらない草取りも大勢ですると非常に綺麗になりお盆を迎えることが出来ました。何よりも嬉しかったのはご奉仕頂いた方々がとても気持ちよく汗を流して下さり、作業が終わった後も晴々としたお顔だったのが印象的で、大変温かいお言葉も頂戴いたしました。今回の大掃除は先月ご紹介した「無財の七施」の中の「身施」に当たります。善行積んで下さった皆様方、本当にありがとうございました。紙面を通して御礼申し上げます。今回は参加出来なかった方も含めまして次回のご協力もお願い致します。

八月二十一日に行いました「千巻心経」並びに七時から開催されました「供養盆踊り」にも大勢の方にお参り頂きました。千巻心経には七ヵ月の赤ちゃんから、上は九十三歳のお檀家様まで四九名。供養盆踊りには上野丘の地域の方々と合流し一五五名の方々が参加下さいました。

この日も大変蒸し暑く、扇風機を総動員したのですが汗の収まる事は有りませんでした。初盆の方はもとより各家のご先祖様を皆様と共にご供養しました。またご家族の健康や家庭円満、商売繁盛、ご縁あって集まった皆さんの平安を互いに祈願いたしました。終わった後の高揚感に力を頂きました。次回の千巻心経は十二月を予定しています。沢山の方のお参りをお待ちしております。

続いて行われた供養盆踊りは七年ぶりの復活でした。上野の自治会長さんはじめ総代様、お檀家様、活性化委員会、有志の方々のご協力があり、私が思っていた以上に盛大な会となりました。最初は一重だった踊りの輪も子供たちを交え二重となりフィナーレを迎えました。準備片付けに携わって下さった多くの方々にはご足労を掛けて申し訳ありませんでしたが、亡くなった方を想い、集い、偲ぶ日本伝統の行事に触れることが出来ました。皆さま本当にありがとうございました。

例年は七月に行われていた仏教会の暁天講座が今月講演される事になりました。

日時　九月十六日（火）十七日（水）
　　午前七時から八時まで
場所　光西寺（大分市末広町一ノ六ノ二六）
　　電話〇九七（五三二）四五三五
講師　牧野桂一（筑紫女学園大学教授）
講題「日常の中に生きる仏教」

急なお知らせでは有りますが都合の付く方はご参加下さい。私も聴講致します。

冒頭にも書きましたゲリラ豪雨の一因は地球温暖化による海面温度の上昇だそうです。仏教には草木国土悉皆成仏（そうもくこくどしっかいじょうぶつ）という思想があります。その意味は「一切の生きとし生けるもの、植物や動物だけでなく、山や川や草木、国土という環境世界も皆ことごとく仏となる本質を持っている」という事です。また来年開創一二〇〇年を迎える高野山のスローガンは「いかせいのち」です。私たち人間は自分の力だけで生きているのではなく、仏性を持ったあらゆる環境の中で生かし生かされているのです。山にも川にも台所にも井戸にも神々が宿り敬意を持って生活を送ってきた日本人。今は五年ひと昔。十年大昔と言えるほど科学が進歩しています。私もハイテク機器は好きですが、もう一度自然環境との共存方法を真剣に考え直す必要があるのではないでしょうか。大切な子供や孫の為にも。

合掌